

Learn about Uganda. Learn from Uganda.

実践場所	茨城県	日立市立駒王中学校	実践者	大竹 弘人
対象	第2学年		時間数	20時間(5時間×4クラス)
担当教科	英語		実践教科	英語・総合
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ウガンダについて学ぶことで、ウガンダやアフリカについての理解を深める。 ・ウガンダの子どもたちと比べながら、自分たちの今の生活や生き方を考える。 ・ヨーロッパや北米以外での英語圏の文化への造詣を深める。 			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	Learn about Uganda. <ul style="list-style-type: none"> ・ウガンダの場所や国旗について知る。 ・日本とウガンダを様々なデータで比べる。 ・ウガンダクイズを行い、文化の違いに興味をもつ。 ・ウガンダの現地語(ルガンダ)を話す。 		
	2	Children and schools in Uganda <ul style="list-style-type: none"> ・ハチマキメッセージを読み取る。 ・ウガンダの同世代の子どもの一日の流れを知る。 ・ウガンダの学校の制度や様子を知る。 ・両国の教育について良い点・改善できる点を比べる。 		
	3	Lifestyles in Uganda <ul style="list-style-type: none"> ・今回の研修のふり返りDVDを見る。 ・ウガンダで食べた料理、交通状況、田舎と都市の生活について知り、抱いていたイメージ通りのこととそうでないことを意見交換する。 		
	4	Let's go shopping in Uga-ya! <ul style="list-style-type: none"> ・ウガンダの貨幣に触れながら、その金銭的価値を知る。 ・ウガンダでは 1,000 円分でどんなものが買えるか計算し、客と店員役に分かれて、お土産屋さんの買い物のやりとりをする。 		
	5	Learn from Uganda. <ul style="list-style-type: none"> ・ウガンダの主食(ポシヨ)を調理して食べたり、ウガンダの紅茶を飲んだりする。 ・これまでのウガンダについての学習を通して、ウガンダから学んだことを意見交換する。 		
成果	<p>普段の授業で英語を得意としていない生徒も、今回のウガンダについての授業は意欲的に取り組んだ。ほぼ全員の生徒が現地語であるルガンダを生活の中で友人同士のあいさつなどに使うなど、英語の授業ではなかなか見せない姿を見ることができた。</p>			
課題	<p>生徒たちは、ウガンダのことについて考え、自分や身の回りのとの様子の違いを見つめることに意識するにとどまってしまう、指導者側が最初に意図していた「自分のことを肯定的に見る」という観点まで行きつかせることが難しくなってしまった。</p>			
備考				

[授業実践の詳細]

1 時限目 「Learn about Uganda」

1 子どもの活動の流れ

- ① 地球儀を用いてウガンダを見つける。
- ② ウガンダの国旗を確認し、由来を知る。
- ③ ウガンダと日本両国の人口・国有面積・通貨・言語・時差を比べる。
- ④ ウガンダ〇×クイズを行う。
- ⑤ ウガンダの現地語「ルガンダ」の日常語を話す。
- ⑥ ウガンダについての興味のあること・疑問のあることを書く。

この時限のねらい

- ・ウガンダの基本的な情報を知る。
- ・ルガンダを学び、次時の授業からあいさつで言えることができるようにする。

2 子どもの活動の成果・反応

(成果)

- ◇ 地球儀を用いたことで、生徒たちは感覚的に日本とウガンダの距離を感じることができた。
- ◇ ウガンダクイズでは、自分の常識とウガンダの実情が異なることに驚いている様子が見られた。
- ◇ 英語でのコミュニケーションが得意でない生徒も、ルガンダでの表現は楽しんで口にしていた。

(反応)

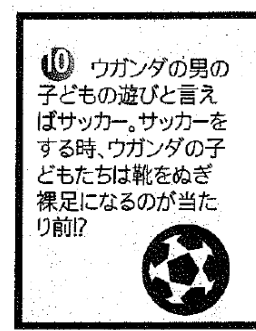
- ◇ ウガンダがアフリカのどのあたりにあるのかわかった。飛行機で何時間かかるのか気になる。
- ◇ ウガンダの国旗がドイツと同じ赤・黒・黄の3色なのは、何か関係があるのだろうか。
- ◇ ウガンダの子どもたちがサッカーのときに靴を脱ぐ理由が、「靴を汚さないため」というのに驚いた。
- ◇ ウガンダ語が「ルガンダ」って紛らわしい。
- ◇ ルガンダが面白い、というかわかしい。オリオチャ、ウエバレニヨなど。

3 使用した教材

<教材1>パワーポイント



<教材2>ウガンダクイズ



1 子どもの活動の流れ

- ① 生徒たちがメッセージを書いたハチマキをウガンダまで届けたので、そのハチマキに書いてもらったウガンダの子どもたちからのメッセージを読む。
- ② ウガンダの学校や交流授業の様子を写真・映像で見る。
- ③ ウガンダの子どもたちの平日のスケジュールを知る。
- ④ ウガンダの学校の制度や様子などを知る。
- ⑤ 訪問してきた学校の特色と日本のつながり方を知る。
- ⑥ ウガンダの子どもたちと自分たちの悩みの違いを比べる。

この時限のねらい

- ・ハチマキメッセージを通して、ウガンダの子どもたちとのつながりを感じる。
- ・ウガンダの子どもたちと自分たちの違いから、両国の良いところを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

(成果)

- ◇ ウガンダの子どもたちからメッセージが返ってきたハチマキを全員嬉しそうに眺めていた。
- ◇ 子どもが水くみをしないと家に飲料水がないウガンダの一方で、蛇口をひねればおいしい水が出てくる自分たちの生活は恵まれていると感じていた生徒が多かった。
- ◇ 自分たちの知らないところで、日本がウガンダの教育をハード・ソフト両面でサポートしていることに対して誇らしげな様子であった。

(反応)

- ◇ ハチマキがアフリカまで行って戻ってきたと考えるとなんだか感動する。すごい！
- ◇ 自分たちの学校生活で5時半起き、60分授業×8コマ、さらに留年まであったらつらすぎる。
- ◇ キリスト教やイスラム教など宗教別の学校があるのは面白い。
- ◇ ウガンダには体育が授業がなかったのに運動神経高い人が多くてすごい。日本もがんばらないと。
- ◇ (日本には)教科書があるということは、幸せなのかもしれない。

3 使用した教材

<教材1>パワーポイント


 Ugandan schools

- ・7-4-2
- ・remain the same grade (even small kids)
- ・Students don't need to pay money.
- ・80 students
- ・60 minutes
- ・no textbooks
- ・no intervals



3

時限目「Lifestyles in Uganda」

1 子どもの活動の流れ

- ① 今回の研修のふり返りDVD(20分程度)を見る。
- ② ウガンダの食事の様子、伝統食の名前を知る。
- ③ ウガンダの交通の様子を知る。
- ④ ウガンダの田舎と都会の様子の違いを知る。

この時限のねらい

- ・振り返りDVDを通して、本研修のおおまかな内容を知る。
- ・ウガンダの人々の生活の様子を紹介することを通して、自分たちとの共通点や相違点を考える。

2 子どもの活動の成果・反応

(成果)

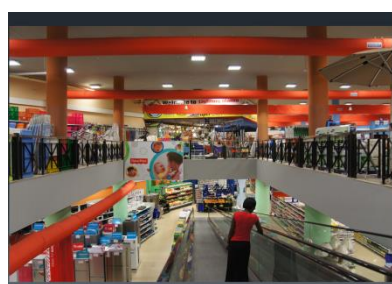
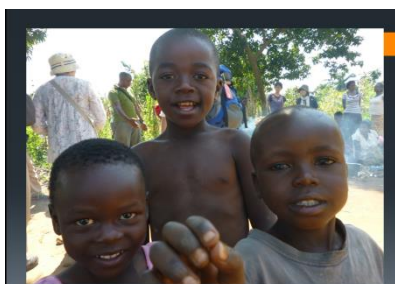
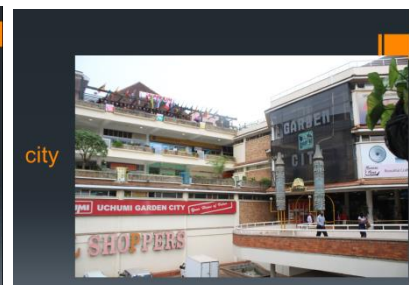
- ◇ JICAの意義と今回の研修の目的を生徒たちが少しでも知ることができた。
- ◇ ウガンダの伝統料理には炭水化物が多く、栄養が十分でないことを子どもたちは危惧していた。
- ◇ ウガンダの乗合タクシーが日本車だということに驚き、誇りをもっている様子であった。
- ◇ 「質素で貧困」のイメージがあるアフリカの国ウガンダでも、都市中心部に行けば先進国と変わらない施設があることを知ることができた。

(反応)

- ◇ 先生たちが外国に遊びに行っていたわけじゃないことがわかった。
- ◇ カンパラ(首都)ではパスタや寿司も食べられることに驚いた。
- ◇ 頭の上に荷物をのせて、よく普通に歩けるなど思う。自分ではすぐに落としてしまいそう。
- ◇ 「〇〇新聞」と書いたトラックがウガンダで普通に走っているのは面白い。
- ◇ ショッピングモールの写真は絶対にアメリカのものだと思った。ウガンダにもあることがびっくりした。
- ◇ ウガンダ料理を早く食べてみたい！！

3 使用した教材

<教材1>パワーポイント



4 時限目 「Let's go shopping in Uga-ya !」

1 子どもの活動の流れ

- ① ウガンダ通貨の実物に触れる。
- ② 通貨ウガンダシリングの価値を知る。
- ③ ウガンダで買って来たお土産に触れ、実際にいくらで売っていたか予想する。
- ④ 英語での買い物表現の復習をする。
- ⑤ 客役、店員役のペアになって買い物表現に親しむ。

2 子どもの活動の成果・反応

(成果)

- ◇ 実物の紙幣と硬貨、買って来たお土産に触れたことで、後の買い物表現の活動への意欲が高まった。
- ◇ 買い物をしたところの店員と教員が写っている写真を見せたことで、買い物の様子のイメージを高めることができた。
- ◇ ウガンダシリングで表記された値段の桁の多さに驚いていたが、日本円に換算したときに安くて驚いている生徒が多かった。

(反応)

- ◇ 数字の数が大きく、買い物の計算は大変だった。
- ◇ お金から感じたにおいは、ウガンダのにおい？
- ◇ 1,000 円では日本はTシャツを1枚ぐらいしか買えないけど、ウガンダではサッカーのユニフォームを買ってしまうことがわかって驚いた。安すぎ！
- ◇ お小遣いがあったら、ウガンダに行って爆買いしたい。

3 使用した教材

<教材1 パワーポイント> <教材2 メニューリスト> <教材3 ウガンダ紙幣>



この時限のねらい

- ・ウガンダの貨幣に触れながら、その金銭的価値観を知る。
- ・同じ 1,000 円分でも買えるものが日本とウガンダでは違うことを知る。
- ・ウガンダでの買い物の表現に慣れ親しむ。

5 時限目「Learn from Uganda」

1 子どもの活動の流れ

- ② ポショの作り方を知る。
- ② ポショを作り、食べる。(パスタソースを用意)
- ③ ウガンダ産の紅茶を飲む。
- ④ これまでの学習を通して学んだこと、感じたことを書く。
- ⑤ 友達と意見を交換し、理解を深める。

2 子どもの活動の成果・反応

(成果)

- ◇ ポショの作り方と日本の代表食、米の炊き方を比べて、ポショの方が手軽に短い時間で調理できるということを実感することができた。
- ◇ ポショを食べる際に、そのまま食べる場合とソースをつけて食べる場合を比べて食べさせたことで、いかに普段の食事でソースやドレッシングに頼っているかを感じさせることができた。
- ◇ 学習する前は場所も知らなかった国について、大きな愛着をもって学習を進めることができた。

(反応)

- ◇ 思っていたよりも普通の味だった。パスタソースをつけたらおいしかった。
- ◇ おいしくないと思っていたけれど、「昔のお米をもこういう感じだった」という話を聞いて、「そうなのか」と思った。紅茶はいい香りがした。おいしい気がした。
- ◇ ポショ作りはあつという間だった。できたてのポショは熱かったがうまかった！
- ◇ ルガンダが楽しかった。もっと覚えて話せるようになりたい。
- ◇ ウガンダは日本とちがって、貧しい国なのかもしれないけれど人々の工夫がたくさんあっていい国だなと思った。キリスト教とイスラム教の人たちが仲良くしているのも素晴らしいと思った。
- ◇ 日本は幸せな国だと思った。昔の日本もウガンダのような生活だったと聞いたので、早くウガンダが発展してほしいと思う。
- ◇ 日本が発展途上国を助けていることがわかったので、私も将来ウガンダに行って手助けをしたい。

3 使用した教材

<教材1 とうもろこし粉>



<教材2 ウガンダ産紅茶>



<教材3 パワーポイント>



この時限のねらい

- ・ウガンダの文化を味覚で楽しむ。
- ・これまでのウガンダについての学習を通して、ウガンダから学んだことを作文にまとめる。
- ・ウガンダについての考えを深める。

■ 全体を通して

1 授業の様子

<写真1> お土産コーナー



<写真2>ウガンダシリングでの買い物のやりとり



<写真3> なかなかおいしいポンヨ



2 参考文献・資料

- 1) 財団法人 愛知県国際交流協会 「わたしたちの地球と未来 ウガンダ共和国」 2010 年
- 2) 独立行政法人 国際協力機構JICA 「mundi」 2015 年 2 月号
- 3) 独立行政法人 国際協力機構JICA ウガンダ事務所 「UG」 2013 年 3 月号

以上